

研究員 の眼

好配当株ファンドの人気はいつまで？ ～2022年6月の投信動向～

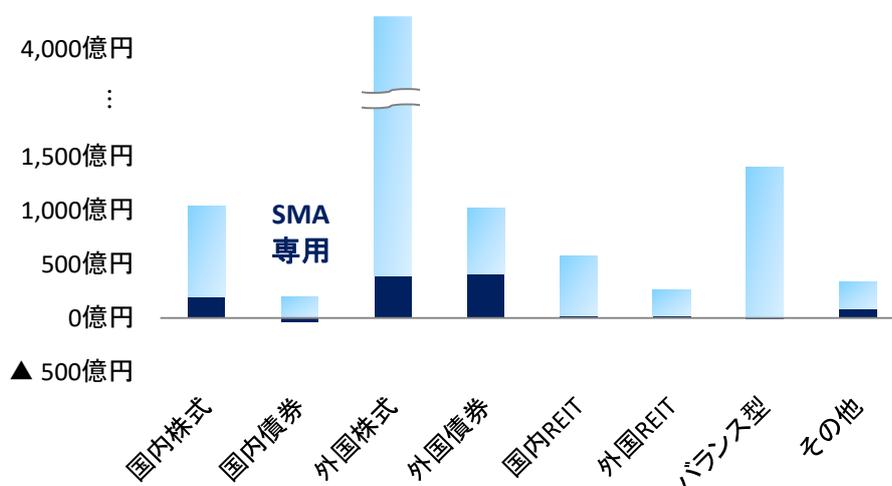
金融研究部 主任研究員 前山 裕亮
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

全体的には流入増加だが

2022年6月の日本籍追加型株式投信（ETFを除く。以降、ファンドと表記）の推計資金流入をみると、6月は主として外国株式を投資対象とするファンドを中心にすべての資産クラスのファンドに資金流入があった【図表1】。さらに外国株式以外のすべての資産クラスで5月より資金流入が増加、もしくは資金流入に転じたため、ファンド全体に9,000億円の資金流入と5月の7,900億円から1,100億円も増加した。

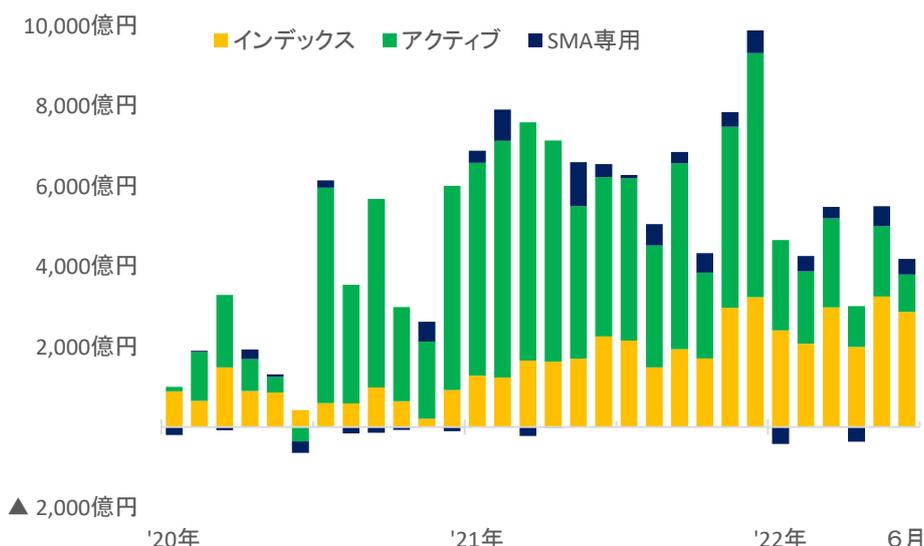
ただ、外国株式ファンドへの資金流入は4,200億円と5月の5,500億円から減少した【図表2】。タイプ別にみると、インデック型では2,900億円の資金流入と5月の3,400億円の資金流入から500億円減少したが減少幅は比較的小幅であった。その一方でアクティブ型は1,200億円の資金流入と5月の2,100億円から約800億円減少し、流入鈍化がより顕著であった。SMA専用のものを除外すると大規模な資金流入が続いていた2020年7月以降で最小の流入額となった。

【図表1】 2022年6月の日本籍追加型株式投信（除くETF）の推計資金流入



（資料）Morningstar Direct より作成。各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類。

【図表2】 外国株式ファンドの資金流入の推移



(資料) Morningstar Direct より作成。2022年6月のみ推計値。

【図表3】 2022年6月の推計純流入ランキング

順位	ファンド名	運用会社	5月の推計 流入	6月の推計 純流入	純資産 6月末時点
1位	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	三菱UFJ国際投信	707 億円	583 億円	12,548 億円
2位	GSグローバル社債ターゲット2022-06(限定追加型)	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント	---	346 億円	342 億円
3位	eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	三菱UFJ国際投信	371 億円	344 億円	5,597 億円
4位	ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド(毎月分配型)	ピクテ投信投資顧問	187 億円	302 億円	10,569 億円
5位	みずほグローバル・ターゲット利回り債券ファンド2022-06(限定追加型)	アセットマネジメントOne	---	245 億円	244 億円
6位	楽天・全米株式インデックス・ファンド	楽天投信投資顧問	290 億円	240 億円	5,836 億円
7位	SBI・V・S&P500インデックス・ファンド	SBIアセットマネジメント	307 億円	229 億円	5,816 億円
8位	ダイワJ-REITオープン(毎月分配型)	大和アセットマネジメント	189 億円	226 億円	4,161 億円
9位	J-REIT・リサーチ・オープン(毎月決算型)	三井住友トラスト・アセットマネジメント	100 億円	143 億円	3,839 億円
10位	アライアンス・パースティン・米国成長株投資Bコース(為替ヘッジなし)	アライアンス・パースティン	184 億円	135 億円	6,267 億円

(資料) Morningstar Direct より作成。ETF、SMA・DC 専用ファンドは除く。

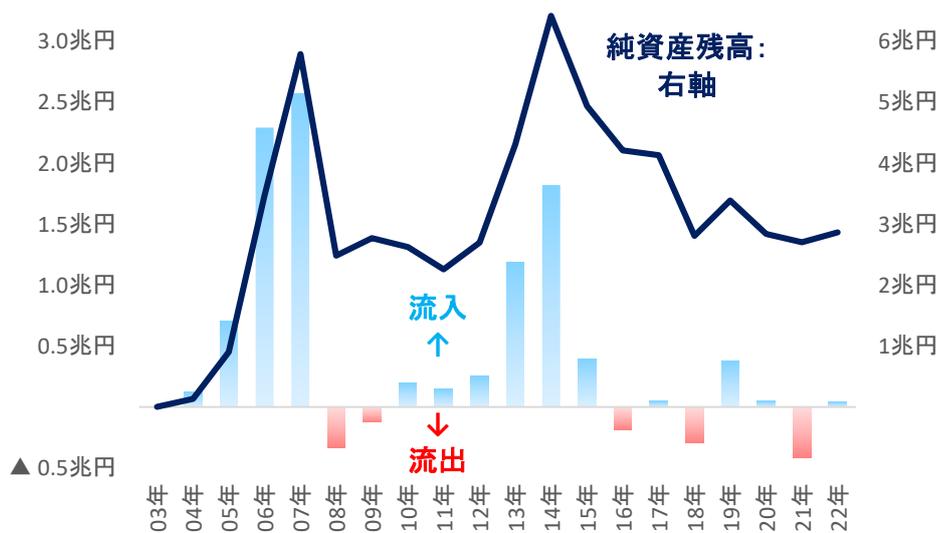
6月は世界的に金融引き締め加速とそれに伴う景気後退懸念から株価が大きく下落した。為替市場で5月末の1ドル128円台から6月末に136円台まで急速に円安が進行したため、基準価額が横ばいもしくは小幅な下落で済んだ外国株式ファンドも多かったが、少なくとも5月と同様もしくはそれ以上に利益確定売りなどの売却が出にくい状況であった。それにもかかわらず、アクティブ型の外国株式ファンドの資金流入が鈍化したことを踏まえると、6月はアクティブ型の販売が厳しかったと推測される。

個別に資金流入が大きかったファンドをみても、上位10本のうちアクティブ型の外国株式ファンドは2本(赤太字)しかなかった【図表3】。昨年までアクティブ型の販売を牽引してきたテーマ型や予想分配金提示型のファンドが上位10本には含まれておらず、足元では売れなくなってきていることが分かる。

不透明感が高い時に人気になる好配当株ファンド

このようアクティブ型の外国株式ファンドが総じて売れなくなる中、健闘しているのが「ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド」(以降、グロインと表記)である。6月は純流入4位の毎月分配型と1年決算型の2本合計で400億円の資金流入がグロインにあり、実にアクティブ型全体への資金流入の3分の1を占めた。4月に51億円、5月に254億円と着実に資金流入が増加してきている。

【図表4】外国株式の好配当株ファンドの資金流入の推移



(資料) Morningstar Direct より作成。2022 年は6月まで。

そもそもグロインは安定的に高い配当の獲得を目指して銘柄選択し、投資することをうたっている好配当株ファンドを代表するファンドである。外国株式の好配当株ファンドはグロインを中心に2006年、2007年や2013年、2014年など過去にたびたび人気を集めてきた【図表4】。直近だと2019年に米中対立が激化し先行きの不透明感が高まる中、グロインが人気を集めた。

現状、インフレや金融政策、さらには景気の動向など先行きに対する不透明感が高くなっている。また、2022年に入ってから高配当株も下落しているが、ハイテク株などと比べて下落幅は小幅で済んでいる。実際に好配当株ファンドのパフォーマンスが相対的に良いこともあり、再び注目が集まっていると思われる。

ただ、好配当株ファンドは2019年に人気を集めた後、2021年は外国株式ファンドが売れに売れていたにもかかわらず資金流出していた。2020年3月のコロナ・ショック以降、世界的に右肩上がり株価が上昇する中、好配当株ファンドはその上昇に追随することができずパフォーマンスがいまひとつだったため、売却する投資家が多かったものと考えられる。今回も一時的な人気で終わってしまう可能性もあり、いつまでグロインを中心に好配当株ファンドの人気が続くのか動向が注目される。

バランス型や国内REITも受け皿に

また、これまでアクティブ型の外国株式ファンドを購入していた投資家の資金の一部が、好配当株ファンド以外にもバランス型や国内REITなどにも流れている可能性もあるだろう。6月はバランス型に1,400億円、国内REITに600億円の資金流入があり、5月の800億円、600億円から増加した。バランス型、国内REITともにSMA専用のもを除外すると2022年に入って最大の流入であった。

なお、外国REITにも300億円の資金流入があったが、5月からほぼ横ばいであった。外国REITは海外の金融政策の影響を受けやすいこともあり、どちらかという国内REITの方が投資家に選好されていると思われる。

その他、6月は国内株式や外国債券にも1,000億円の資金流入があった。国内株式は5月の600億円から増加したが、単純に株価下落に伴ってインデックス型中心に資金流入が膨らんだ面が強いのだろう。外国債券は5月の40億円の資金流出から流入に転じたが、資金流入はほとんどがSMA専用もしくは2本の新設ファンド（青太字）への流入だった【図表3】。この2本の新設ファンドは為替ヘッジしているものであり、預貯金や国内債券の代替として売れたと考えられる。ただ、足元ではドルのヘッジコストが上昇しているため、ヘッジ付の外国債券は期待したような収益が短期的には上がらない可能性があり、注意が必要である。

中国株式ファンドが好調

6月に高パフォーマンスであったファンドをみると、ロシア・ルーブルの通貨選択型を組み込んだファンド（青太字）が好調であった。それに加えて上海のロックダウンの解除や政策期待などから中国株式が上昇したため中国株式ファンド（赤太字）も総じて好調だった。

【図表5】2022年6月の高パフォーマンス・ランキング

	ファンド名	運用会社	6月の 収益率	過去1年 収益率	純資産 6月末時点
1位	三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<ロシアルーブル>毎月	三菱UFJ国際投信	39.6%	79.5%	32億円
2位	国際・キャピタル 日本株式オープン(通貨選択型)ロシア・ルーブル(毎月決算)	三菱UFJ国際投信	38.3%	57.5%	12億円
3位	iFreeNEXT ATMX+	大和アセットマネジメント	24.2%	-21.7%	11億円
4位	チャイナ脱炭素イノベーション株式ファンド	日興アセットマネジメント	21.5%	---	19億円
5位	深セン・イノベーション株式ファンド(1年決算型)	日興アセットマネジメント	20.9%	-8.4%	444億円
6位	ダイワ/バリュール・パートナーズ チャイナ・ヘルスケア・フォーカス	大和アセットマネジメント	20.2%	-20.5%	251億円
7位	華流国潮イノベーション株式ファンド(1年決算型)	日興アセットマネジメント	19.9%	-16.0%	52億円
8位	ダイワ/バリュール・パートナーズ チャイナ・カーボン・ニュートラル・フォーカス	大和アセットマネジメント	18.6%	---	17億円
9位	東洋・中国A株ファンドDD「華夏」2020	SOMPOアセットマネジメント	18.4%	-16.3%	83億円
10位	iFreeActive チャイナX	大和アセットマネジメント	18.1%	-22.5%	15億円

(資料) Morningstar Direct より作成。2022年6月末残高が10億円以上のETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

(ご注意) 当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したのですが、その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。